セキュリティスイッチ

TiFRONT

不正通信のみを自動ブロック!

サイバー攻撃を拡散させない新常識

PIOLINK

TiFRONT クラウド管理型のメリット

運用コスト削減

管理サーバ用の端末に対する
保守・セキュリティ対策が不要。
管理サーバを新規・追加で構築する必要なし。

いつでもどこでも状況把握ができる

クラウド型管理のため、
社外でもアクセスでき状況把握が可能。

設定、ファームウェアのアップデートが簡単

ゼロコンフィグ機能等、
管理システムからの対応が可能に。

脅威が見える、脅威を止める 簡単管理が可能なTiController

TiController（ティーコントローラー）は、視覚的に明瞭な
管理画面でネットワーク内を可視化・監視します。
異常があればログを確認でき、
地方拠点に設置された
TiFRONTも一括管理が可能。
専任のエンジニアは不要です。

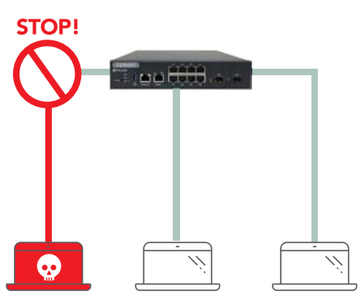
TiFRONTが設置された環境の ネットワーク・デバイスを可視化

TiFRONTがいるネットワークにおいて、通信だけでなく
パソコン、プリンター、カメラ、APを一覧で可視化します。
ネットワーク内のデバイス情報を取得するだけでなく、
通信をブロックすることも可能。

TiFRONTセキュリティスイッチ機能

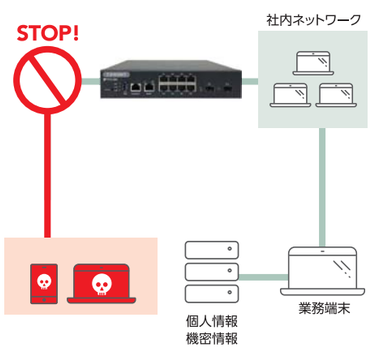
内部拡散防止

ランサムウェアが拡散で使用する
SMB通信を検知・遮断



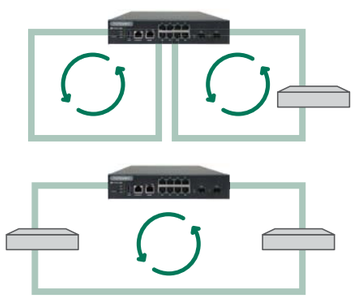
内部不正通信の遮断

情報収集の防止



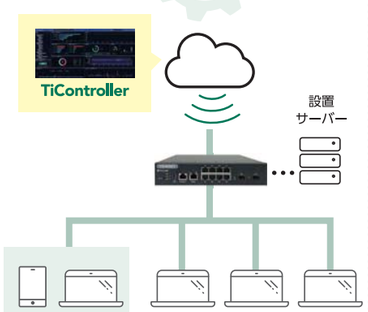
ループの防止

セルフループ防止機能で
ネットワークダウンを防止



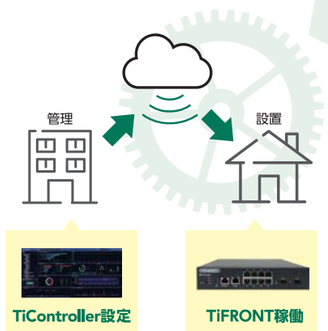
管理サーバー不要

場所を選ばず設置可能



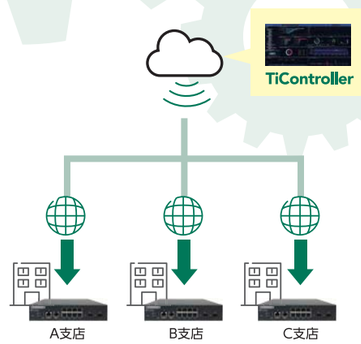
機器設定

ゼロタッチインストレーションケーブル
接続で設定完了



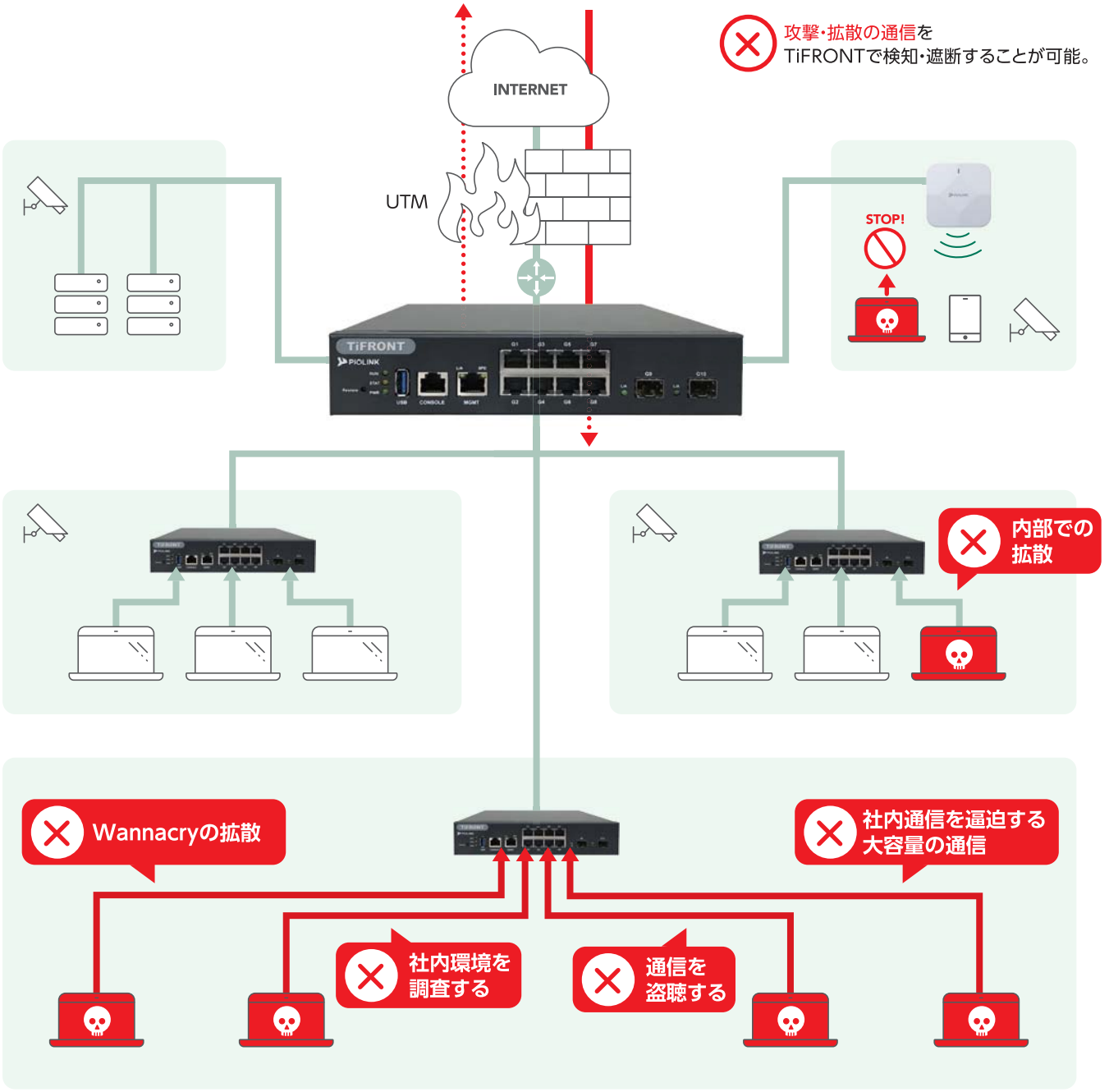
一元管理

インターネット環境があれば
クラウド上で一元管理



遮断できる攻撃について

サイバー攻撃の多様化により、UTMなどのセキュリティをすり抜けて感染が広がってしまい、情報漏洩を起こしてしまうケースが増えています。TiFRONTはL2スイッチベースのセキュリティ機器として、社内で感染した端末の拡散活動を検知・ブロックします。
また拡散活動以外にも、情報収集活動やDoS攻撃を検知・ブロックします。



セキュリティエンジン「TiMatrix」

PIOLINKが開発し、特許を取得しているセキュリティエンジン『TiMatrix』は、TiFRONTに接続しているデバイスから発生する攻撃の通信や、社内へ拡散する悪質な通信を検知・遮断します。また遮断は攻撃が発生している端末、かつ、該当の攻撃通信のみに対して行うため、同じTiFRONTに接続している別端末は遮断の対象になりません。

クラウド管理型セキュリティ

TiFRONT-AP

Wi-Fiとセキュリティを同時に。
クラウドで管理・設定を。

TiFRONT-APは無線アクセスポイントベースのセキュリティ製品です。
TiFRONTセキュリティスイッチと同様、セキュリティエンジンTiMatrix（ティーマトリックス）をアクセスポイントに搭載しております。APに接続している端末・デバイス・スマートフォン等が配信する通信を監視し、即座にネットワークから遮断。拡散を防止します。
TiFRONTセキュリティスイッチと同様に、TiControllerによる一元管理が可能。クラウド上で有線・無線問わず社内ネットワークを常に見守り、脅威をいち早く発見します。

しきい値+可視化セキュリティ内部対策

TiFRONTは社内のネットワークを常に監視します。TiFRONTはネットワーク通信におけるしきい値を持っており、社内通信において通常では発生しにくい珍しい通信があった場合にはその通信のみを検知・遮断します。
しきい値によって発見される攻撃とは実際の攻撃前に行われる社内のネットワーク調査や、通信の盗聴、または実際の端末感染時の社内へ拡散する活動を意味しています。
しきい値を超える通信が発生した場合は、セキュリティレポートという形で確認することができ、社内に脅威が潜んでいないか、怪しい通信を行っているデバイスがいないかを定期的に見直すことが可能です。

アプリでいつでもどこでも製品管理

アプリなら、パソコンを開かなくても、スイッチやAPの管理が可能です。
いつでもどこでも好きな時に、セキュリティスキャンしご確認いただけます。

TiFRONT クラウドセキュリティスイッチ ハードウェア仕様

製品モデル		CS2710G / CS2710GP	CS2628GX	CS3852GX
製品画像				
インタフェース	最大ポート数	10	28	52
	10/100/1000Base-T	8	24	48 ※1
	1000BASE-X SFP	2	—	—
	10G SFP+	—	4	4
	管理ポート※2	1	—	1
	コンソールポート※3	1	1	1
処理能力	最大スイッチ容量※4	20Gbps	128Gbps	176Gbps
	最大スループット※9	29.76Mpps	190.48Mbps	261.91Mpps
	MACアドレス登録数	16K	16K	32K
	ジャンボフレーム	9K	9K	12K
メモリ	フラッシュメモリ※5	512MB	256MB	256MB
	メインメモリ	512MB	512MB	1GB
PoE規格	PoE	IEEE802.3af*1	—	—
	PoE+	IEEE802.3at*1	—	—
	UPoE(60W)	—	—	—
	最大給電可能電力	120W*1	—	—
電源	定格電圧	AC100 ～ 240V (50/60Hz)	AC100 ～ 240V (50/60Hz)	AC100 ～ 240V (50/60Hz)
	最大消費電力※6※7	13.36W / 16.4W	24W	59.6W(S) / 59.3W(D)
	電源冗長化	—	—	○(オプション)
	ケーブルロック	○	—	○
筐体	サイズ[WxDxH]	220 x 220 x 44(mm) / 260 x 260 x 44(mm)	443 × 273 × 44 (mm)	440 x 395 x 44(mm)
	筐体タイプ※8	ハーフサイズ(1U)	ラックマウント(1U)	ラックマウント(1U)
	重量※6	1.4Kg / 2.7kg	3.2Kg	5.1Kg(S) / 5.3Kg(D)
	USBポート	○	—	○
	ファンレス対応	○	—	—
動作条件	温度	0 ～ 55℃ / 0 ～ 40℃	0 ～ 50℃	0 ～ 50℃
	湿度	0 ～ 90% (結露のないこと)	0 ～ 90% (結露のないこと)	0 ～ 90% (結露のないこと)
認証・その他	EMC認証	VCCI (Class A)	VCCI (Class A)	VCCI (Class A)
	CC認証	○	○	○
	IPv6対応	IPv6 ready logo (Phase-II)	IPv6 ready logo (Phase-II)	IPv6 ready logo (Phase-II)
	RoHS対応	RoHS Compliance	RoHS Compliance	RoHS Compliance

*1 CS2710GPにのみ対応しています。 *2 CS2728GPにのみ対応しています。 製品スペックは予告なく変更することがありますのでご了承ください。

クラウドセキュリティアクセスポイント ハードウェア仕様

製品モデル	CA1002C
製品画像	
ラジオ構成	802.11 b/g/n
	802.11 a/n/ac
	W52/W53/W56
	内臓アンテナ
インタフェース	10/100/1000BASE-T
	10/100/1000BASE-T
最大データレート	5GHz : 867Mbps
	2.4GHz : 300Mbps
空間ストリーム	5GHz : 2x2
	2.4GHz : 2x2
チャネル幅	20/40/80 MHz
電源	802.3at
	DC power
定格電圧	AC 100-240V
最大消費電力	12W
サイズ	170 x 40 x 170(mm)
重量	368g
温度	0 ～ 50℃
湿度	20 ～ 90%
機能	チャネル自動選択
	VLAN(IEEE802.1Q)
	セキュリティ検知 / 遮断機能

※1 内4ポートは10/100/1000BASE-Tと1000BASE-X SFPの排他利用ポート(Dual media combo port)です。
※2 管理ポートのインタフェースは10/100Base-TXです。
※3 コンソールポートのインタフェースはRJ-45のRS232Cです。※4 最大スイッチ容量は、バックプレーンの事です。
※5 はバッファを含まないPLOSイメージ容量 ※6 最大消費電力・重量の表示において、(S)は電源装置が1個の場合、(D)は2個の場合を示します。※7 PoE機能モデルの最大消費電力は、「最大消費電力＋PoE規格の最大給電可能電力」になります。
※9 最大スループットは1ポートあたりのパケット転送能力を指標としており、1000Base-Tリンク時における規格上1,488,100pps/台となりますので、pps値を割り算する事により1スイッチあたり何台のPCをギガビットのワイヤースピードで使用できるかが算出できます。

PIOLINK について

2000年に韓国ソウルで創業された、クラウドデータセンターの最適化ソリューションを開発する専門企業です。
PIOLINKは、データセンターの輻輳(ふくそう)するトラフィック、クラウド、ビッグデータの急激な変化及びダイナミックなネットワークのインフラにてサービスの可用性、性能、セキュリティ、マネジメントを最適化します。
増加するモバイル機器とスマートワーク環境においてサービスレスポンスを迅速に処理し、企業のサーバ集中化、仮想化環境での顧客データ及び企業の機密データを保護します。又は、ITリソースの効率的な使用により、全てのアプリケーション使用を保障し、強力なセキュリティと監視を通した可視性でお客様の満足度と信頼度を高めています。

株式会社ピーエスアイ
https://corp.psi.co.jp

本　　社　〒160-0022 東京都新宿区新宿5-5-3 建成新宿ビル4F
Tel.03-3357-9980 Fax.03-5360-4488

大阪営業所　〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-4 KDX新大阪ビル9F
Tel.06-6151-4034 Fax.06-6151-4035

福岡営業所　〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神3-4-5 ピエトロビル4F
Tel.092-731-1238

名古屋営業所　〒460-0003　愛知県名古屋市中区錦2丁目9－27 NMF名古屋伏見ビル8F-A
Tel.052-217-8810